

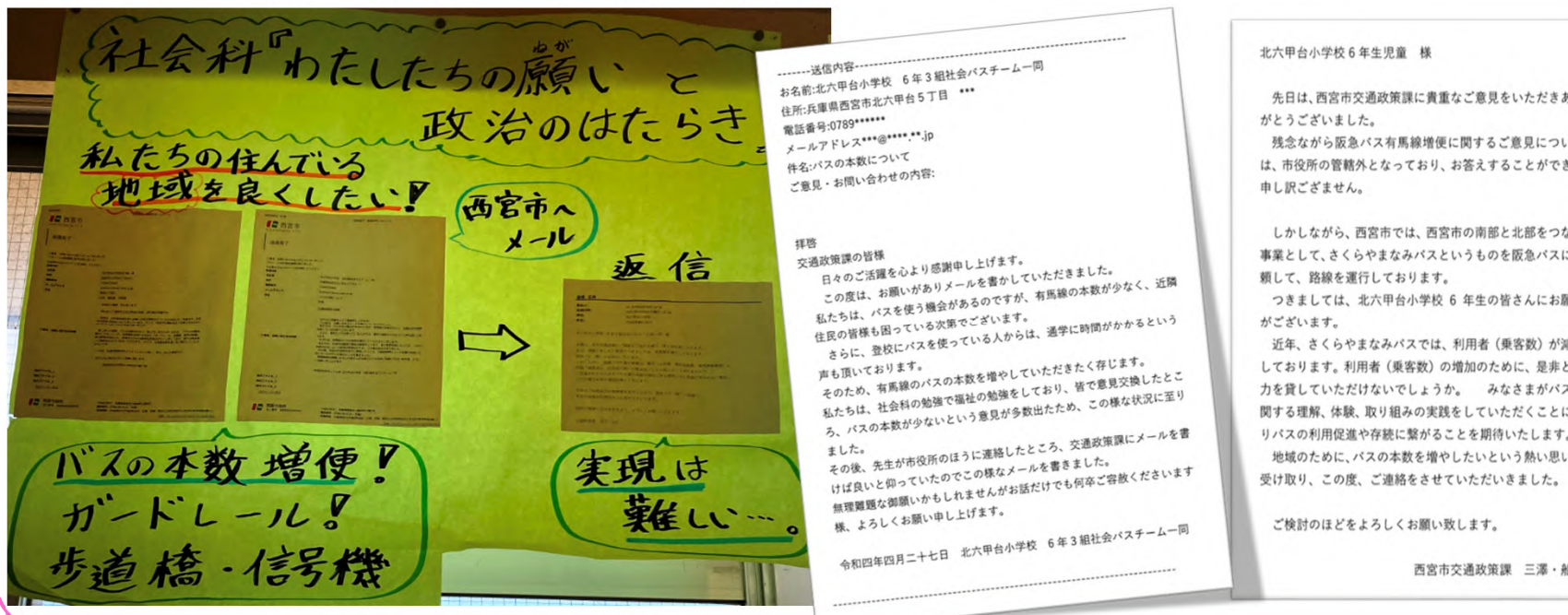
地域に走るバスという教材を通して利用促進活動等に取り組むことで、誰もが過ごしやすく優しい地域社会の形を考え、持続可能な社会の実現を考えることをねらいとする。

○取組概要

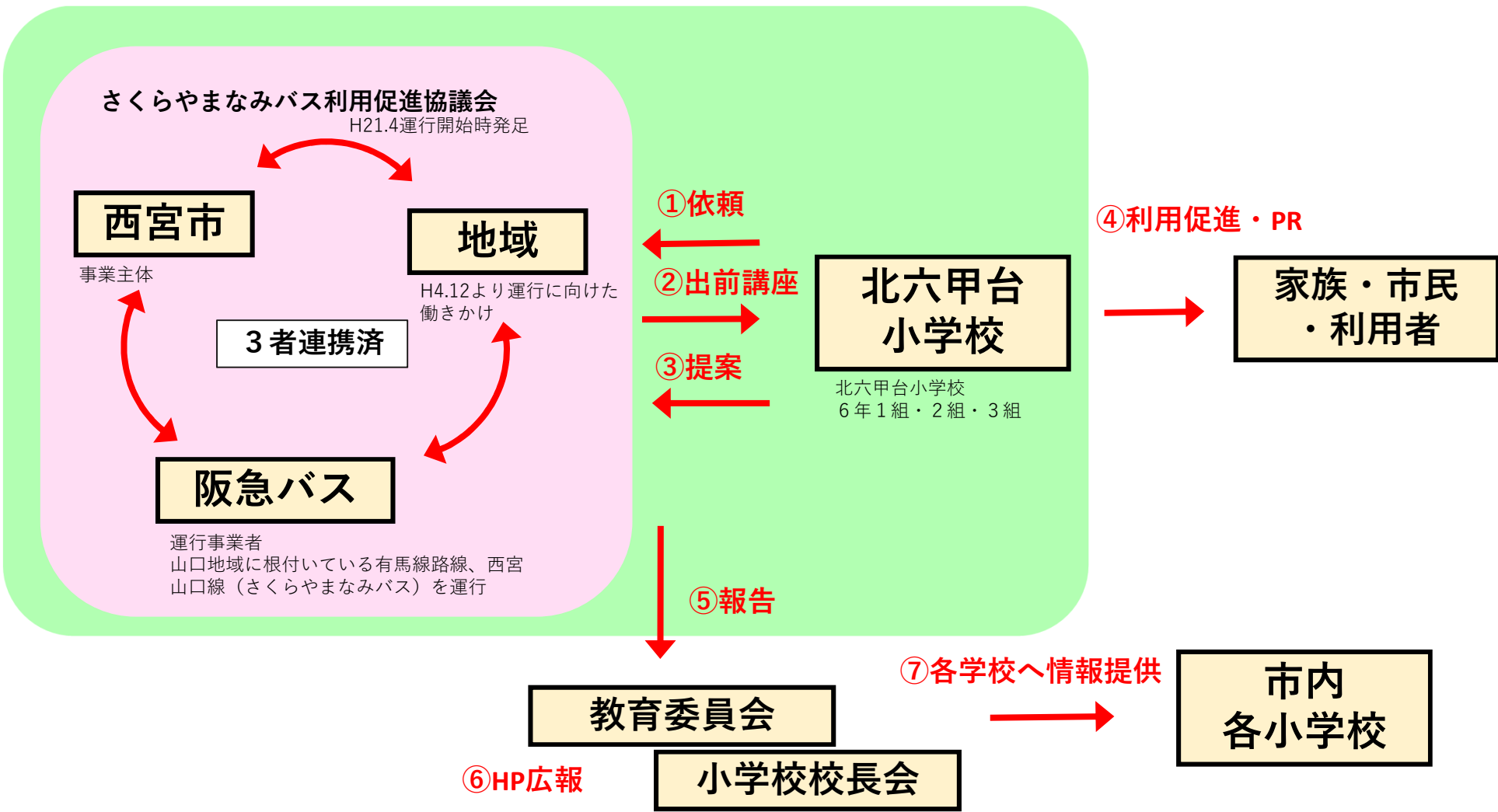
小学6年生の社会科授業で児童が確認した「バスの便数が少ない」という地域の課題から、「さくらやまなみバスの利用者を増やす取組を基とした、地域活性化、社会参画へのつながり」が総合学習の題材とされ、児童自らが市に「バスの便数を増やしたい」というメールを送付した事をきっかけに、小学校・地域住民・バス事業者・市役所の4者が連携し取り組んだもの。地域にさくらやまなみバスの存在を知ってもらうことや、西宮市の税金により運行していることを伝える活動を児童の主体的な学びの中で行った。



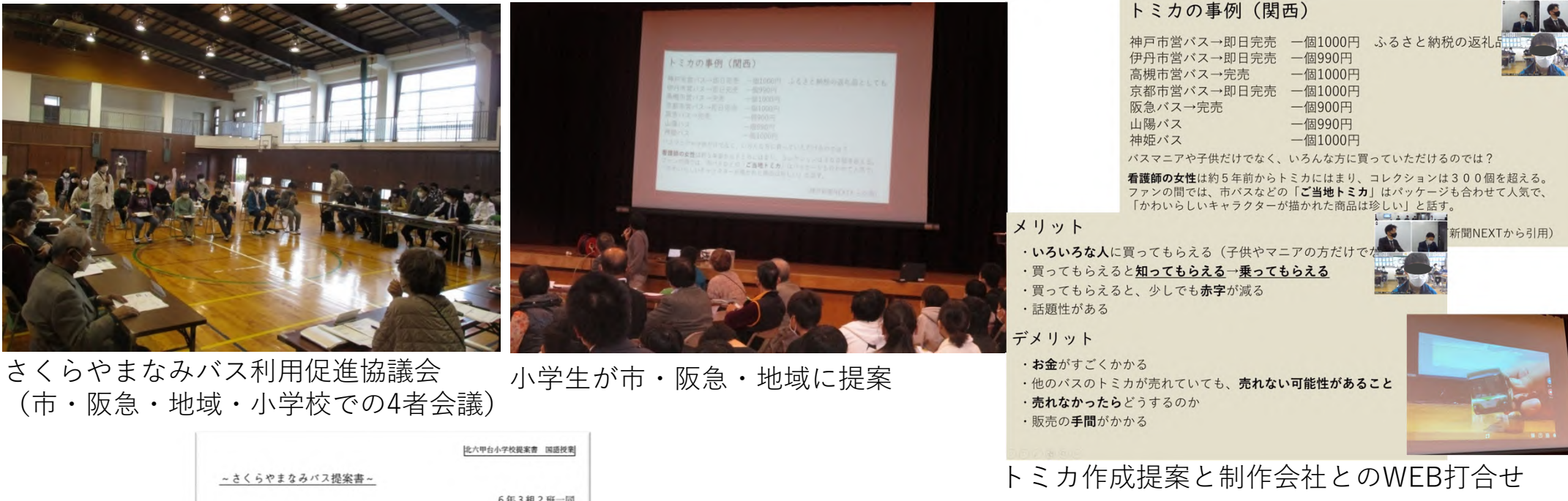
導入経過 社会科授業と一通のメール



バスDGs (M・M) 推進体制



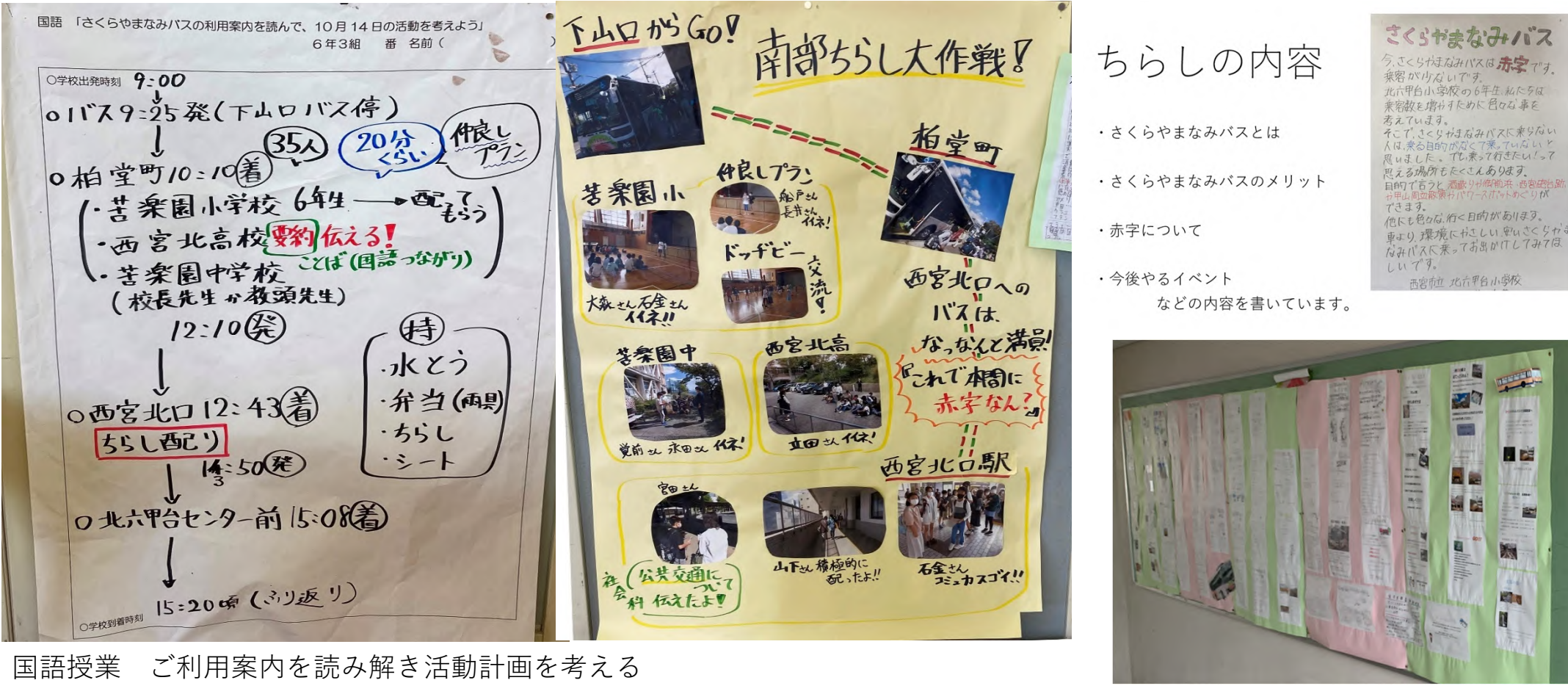
3学期 バスに乗ってもらおう!!!



1学期 バスのことを知る！



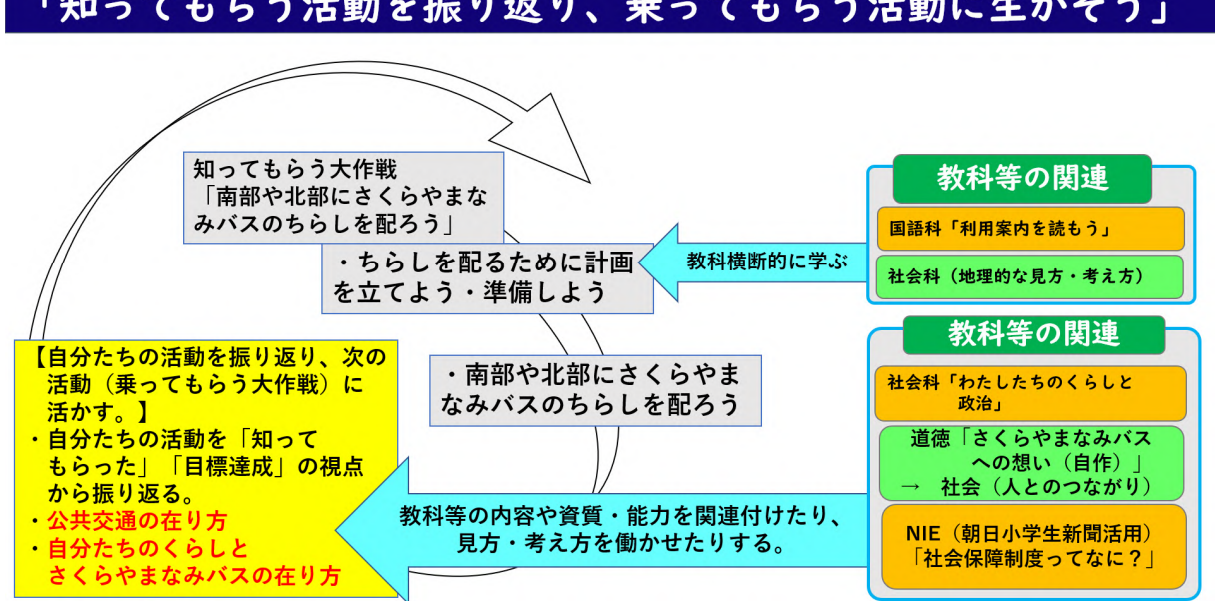
2学期 バスのことを知ってもらおう！！



成果

「バス D G s の実現」単元において、バスの乗客数を増やす取組は、児童による地域の魅力を伝える周知活動や募金活動による直接的な広報効果や収益効果、また児童自身が将来の地域の姿や公共交通のことを考えるきっかけとなった。さらに児童が大人になった未来を考えるように、活動を見守る大人が未来を考えるきっかけとなる。

探究の過程



授業の中での 0児の発言「公共交通とは何か」

○兎「さくらやまなみバスは、住んでいる人が便利に移動できるためにできたって言ってたやん。住んでいる人が不便じゃないんやったら(乗らなくて)よくない？
わざわざ乗らせようとする必要がないっていうか……。」

先生「そもそも赤字ってなにでまかなわれているの？」
 (税金・国とか県とかの補助金) つぶやき
 M児「国の助成金・税金」(社会的な知識)
 O2児「最終的には、自分たちが払っていることになっている。」

税金を使うことはいいのか？！

[illegible]

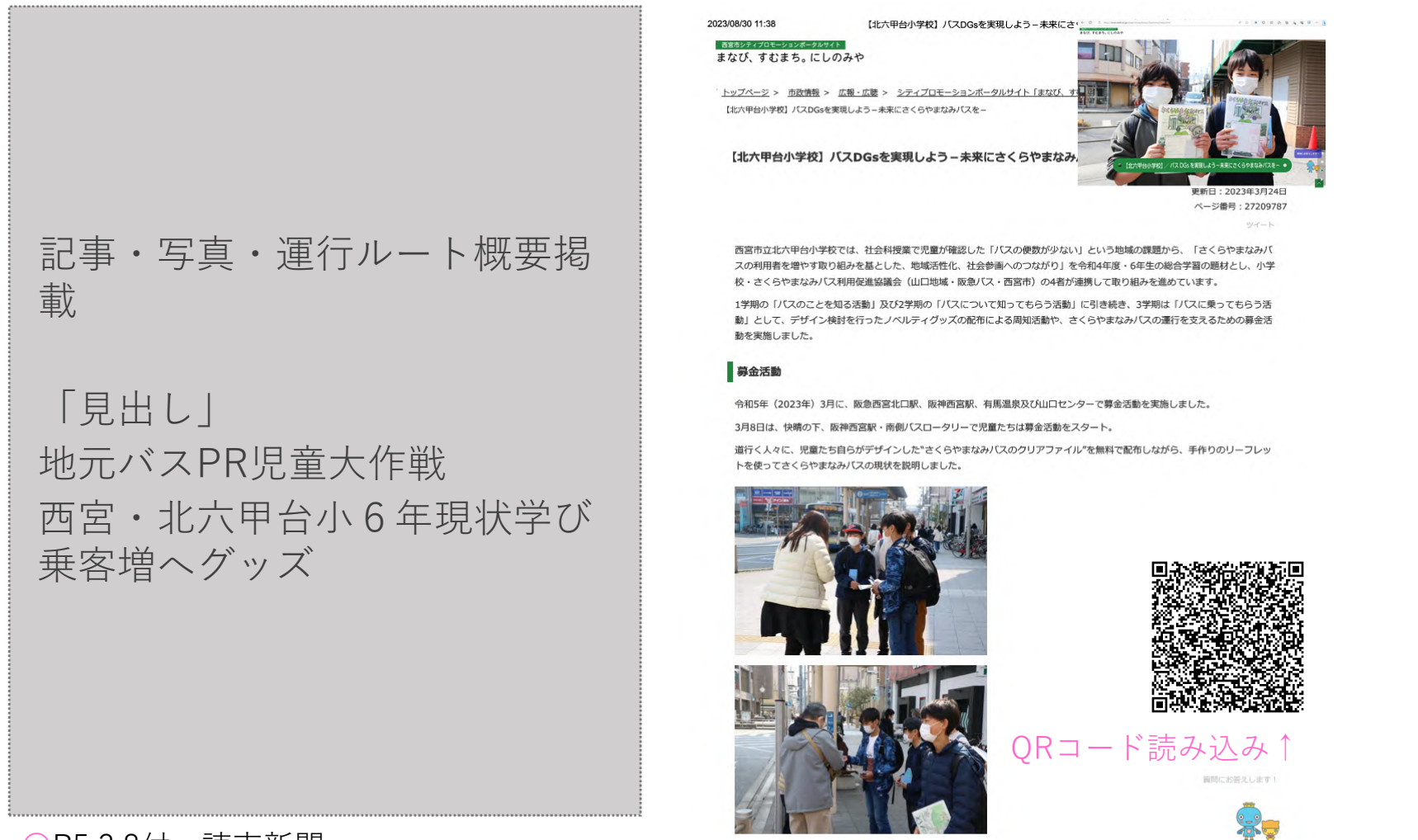
○まとめ

小学校 6 年生は、地域社会、政治、税金の使い道など公共に対する学びが充実する学年である。地域の想いで実現したバスは教材としても適していたと考える。取り組み事例が市教育振興基本計画の行動指針に掲載され、市内小学校長会へ説明することで、今後の活動に繋がるよう配慮した。交通事業者や自治体発信ではなく、学校主体で取り組んだ 1 年間の学校教育 MM の事例として関係者の参考となれば幸いである。

★子供なりの応え★

☆行く目的をつくる。
☆若い人に乗ってもら
わないと持続しない。
☆継続して乗ってもら
う人を増やす。
→ 1回しか乗らない
200人より毎日乗っ
てくれる1人の方が大
事!

主な広報実績など



○R5.3.8付 読売新聞

記事・カラー写真掲載

「見出し」

児童ら「増やせ乗客」大作戦
北六甲台小6年生自作チラシ配
り寄付募る

○R5.3.10付 神戸新聞

募金活動をみて西宮市にふるさと納税
された県外在住者の声

「娘がさくらやまなみバスを利用した際に、小学生が寄付を募ってましたが、タイミングが悪く、寄付できなかったもので、この形で寄付させていただこうと思いました。6年生の手作りクリアファイルを頂いたようで、是非、応援したいと娘が申してました。」

阪急バスより

1年間を通して小学校授業でのモビリティ・マネジメントの取り組みははじめての経験となりました。

出前講座では、公共交通の重要性、ダイヤの作成方法、経費と収入の関係などについて、乗り方教室では、運転手の死生を体感していただくことなどを通して、大型バスの特性について、より深い内容を説明できる機会を与えていただきました。また、沿線の北六甲台小学6年生に路線バスの現状や課題をお伝えできました。路線バスが、児童自身の生活レベルに落とし込み考えることができず、問題提起、原因調査、課題解決に向けての探求課題の一つとなれば幸いです。

持続可能なバス事業「バスDG」の実現には、事業者努力だけでなくこれには限界があります。今回と同様の取り組みが、学校教育から始まり広がることにより、地域で守り維持いただける公共交通の好循環を作るきっかけとなることを期待しております。